

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106084		
法人名	医療法人 青木内科小児科医院		
事業所名	グループホーム あいの里シルバーメイツ (1階ユニット)		
所在地	岡山県岡山市北区今5丁目3-25		
自己評価作成日	平成23年2月23日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・のびのびとした空間・家庭的な雰囲気の中で一人一人が安全で安心して過ごせる場所を提供している。利用者様ひとりひとりに合わせて自立に向けた支援をしている。(母体が医療法人・各専門職との連携・情報の共有・チームワーク作り)</li> <li>・家族との連携や信頼関係を築き、地域とのつながりを大切にし、地域の中の一員として生活が送れるよう取り組んでいる</li> <li>・サービスの質の向上にむけて全職員が正職員・有資格者であり、研修の充実をはじめ、「ケアは気づきである」をモットーにより良いケアを提供している</li> <li>・今年度の目標計画は、ほぼ達成できている。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370106084&amp;SCD=320&amp;PCD=33">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370106084&amp;SCD=320&amp;PCD=33</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成24年3月3日

<p>9年目を迎える「あいの里シルバーメイツ」は、ここしばらくの間で何人もの利用者の入れ替わりがある等、開設以来初めての大きな変動があっても揺らぐ事なく、掲げて来た理念を念頭に置き、より良いケアを目指して頑張っている。職員が全員正職員で入れ代りも殆どなく、研修等も充実しており、皆各種資格を取得している職員の質の高さが、この状況を継続させているのだろう。この背景には法人の姿勢が大きく関わっており、例えば医療面の充実と言うまでもなく、認知症に対する造詣の深さは格別と思われる。しかも、ケアの現場では管理者・職員の自主的で発展的な取り組みが次々と展開され、外部評価で訪問する度に新しい挑戦に出会って、このホームの粘り強さに感動し続けている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義は日常の生活やケアの中で十分に理解されていると思う。年に1回全体での目標・個人の目標を決め、半年に1度見直しをし、目標に向けて話し合いをしている。またケアプラン作成時などに理念に基づき職員全員で実践につなげるべく統一を図っている	利用者一人ひとりの個性や持てる力を尊重しようとする姿勢は日常生活のあらゆる場面で見ることができ、その為の具体的な取り組みとして継続している。「目標管理シート」の活用が着実に実を結んでいると思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	設立当初から月に1回公園の清掃作業に入居者と共に参加している。日常的に散歩に行き挨拶を交わしたり、近隣の方から野菜や果物などの差し入れがある。ホームの行事にも多数の参加がある。町内の行事にも積極的に参加している。定期的な保育園児の訪問を受け入れている	ホームの開設以来、地域の一員として溶け込もうとするあらゆる努力が年々形になってきている。毎回参加している町内の草取りや行事に対しても地域から感謝の言葉が聞かれたり、お誘いの声も掛けられるようになった。	広義での地域との付き合いと解釈すれば、近隣の他のグループホームとの交流もとても良い。継続して利用者同士のお付き合いまで輪が広がればもっと楽しいかもしれない。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を定期的に配布する・見学や相談があれば積極的に引き受けている。運営推進会議の内容に勉強会や外部講師の研修なども取り入れている。人材育成の貢献として実習生の受け入れを積極的に行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回サービスの実際や取り組みについて報告をしている。家族の意見や思いを伺い、職員間の情報共有と見直す点への話し合いを設け、意識向上につなげている	「ここは家族や地域の方の参加が多くて、とても良い」等参加者から評価される程充実した会を運営している。ホーム内の問題点も必ずオープンにして、「利用者の抱え込みを防止し、地域に開かれたサービスを」の、運営推進会議の定義を完遂している数少ないホームである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護支援相談員の受け入れを行っている。地域包括支援センターと連絡を密に行うと共に、運営推進会議に毎回参加して頂きホームの実情やケアサービスの取り組みを伝えている	運営推進会議への岡山市の担当者の出席をホーム側は毎回依頼し続けているが、未だ十分な支援は得られていない。但し、包括支援センターとの連携は良くなり、情報交換も積極的に行っているためホームは心強く思っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が講師になり、身体拘束・虐待などの研修を実施している。日々のケアの中で身体拘束になるようなケア内容があればその都度説明を行い、申し送りや会議等で職員全体に徹底するようにしている。身体的な拘束はもとより、言葉による身体拘束についてもケアの中で十分な注意をしている。基本的に身体拘束はしないという前提で取り組んでいる	玄関の施錠を含めて、利用者の心身の状態がどのように変化していても禁止の対象となるような身体拘束の具体的な行為はない。但し、職員の意識を高めるため、また、「心理的拘束につながる言動は見当たらないか」等「気づき」を喚起させる為研修をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関しても、研修を実施したり、マスコミでの報道等にも関心を持ち、心理的な虐待も含めてその都度申し送りや話し合いをするなど防止に努めている。職員の精神的ストレスが、ケアに影響しないように自己のコントロールに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前出前講座等を使用し、研修を実施した。成年後見制度を利用している家族が増えつつある為、情報を収集している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をとって、十分に説明を行っている。特に家族が心配されている点「看取り・重度化」などについては、詳しく今までのケース等を参考にしたり、法人としての連携体制等も十分に説明をし納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けている。推進会議をはじめ、カンファ時・面会時等に意見を言いやすいような雰囲気づくりに努めたり、雑談の中での気づきを共有し、改善反映するようにしている。家族からの苦情は、迅速に対応し、職員間で共有し、サービスの質の向上につなげている	運営推進会議や家族会への参加は以前から多く、平日でも7割近く家族が参加して交流したり意見交換をしている。ホーム側からの「笑う門には福来たる」や個別の「家族通信」等、情報提供もよくできている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気づきシートを利用して、月に1回皆で意見を出し合い、改善の方向にもっていている。手帳の提出や目標管理シートの面談時等にも意見を聞くようにしている。毎月の定例の法人全体での運営会議には意見や提案を検討し、その内容は職員に伝達している	ユニット毎に日々の「気づき」を拾い表に出す方法はそれぞれ工夫しているが、その都度迅速に職員間で話し合い改善につなぐ習慣ができています。職員を尊重し、要望にも耳を傾け大切に育てようとする事業所の方針もよく理解できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課(目標管理シート)や日頃の気づきや提案などを記入する手帳の内容の把握に努めている。資格取得に向けた支援を法人全体で行ったり、研修を始め、勉強会などを積極的に取り入れている。また子育てがしやすい職場環境労働条件が整っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修年間計画に基づき、法人全体または事業所ごとに研修委員会を設置し、入職時の研修を始め、経験年数に応じたスキルアップのための研修専門職による各種研修等で質の高い職員を育てる取り組みを行っている。また外部研修への参加を促し、受講後は伝達講習なども行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流を行い、それぞれのホームの行事や、推進会議等に参加し、情報の共有を行うと共に、サービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用申し込み時には、本人の生活状況を把握するよう家族や、利用しているサービス機関からの情報を収集している。また事前面談時には、必ず本人にきていただき、本人の思いを把握し、他の入居の方とお茶など飲んで頂き雰囲気等を体感して頂いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困っている事や今までのご苦労や大変さを傾聴し、当ホームの対応などについての話し合いをするように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの利用だけではなく、「その時」必要としているサービスに関して、法人内のサービスはもとより、他の関係機関への紹介や電話での問い合わせなどを積極的に行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで一生懸命生きてこられた人生の先輩であるという認識を職員は持ち、お互いに助け合うという思いで生活をしている。生活歴から得意分野等を十分に把握し、教えてもらったり助けていただきながら生活を共にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時をはじめ、カンファ時などにも日常の細かな様子をお伝えしている。また定期的な便りや新聞等の発行を行い、日々の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状や暑中見舞い等で思い出話等話したり、時々の墓参りや家族を介して昔馴染みの友人たちや親せき等の訪問があり、積極的に機会を設けている	利用者の友人や知り合い・親戚等、多くの人が訪問してくれるのは、このホームに気易い雰囲気があるからだろう。また職員は買物や美容院へ行く事、受診に同行する事等で、馴染みの関係を少しでも継続できるよう、意識して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について全職員で日々情報を共有し、孤立しないような席の配置や個別な関わり、ストレス発散方法の模索、家族との情報共有等をおこない、孤立しそうな状況を事前に仲裁している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先への見舞や、手紙・家族との電話での連絡をはじめ、その関係先との情報収集を行う様、努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや意向を把握できるような気づきを大切に、職員全体で共有している。本人にとってどこでどのように暮らす事がいいのかを常に考え、家族とも話し合いをし検討している	「お風呂で一對一になった時」「一緒に食事を作りながら」「ゆったりとソファで寄り添いながら」こんなありとあらゆる場面でその人の思いや意向に職員が気づき、それを皆で共有し、状況によってはケアプランにまでつないでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はもちろん、日々の関わりの中・家族の面会時等把握ができるような環境作りを行っている。自分史作りを継続し、生活歴等の見直しの再発見に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り・個人カルテ・申し送りノート・日誌等を通し、日々の状態を把握するようにしている。できることや得意な分野での支援が自信にもつながる為に日々の行動・言動から新たな発見に結びつけるよう働きかけている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日常の関わりの中で、思いや意見を聞き把握するように努めている。また家族にカンファレンス等に参加を促している。職員はカンファレンスではもとより、日常の中で、気づき等を即プランに結び付けるような支援を行っている	入居時やその後の情報に加えて、その人の歩んできた生活歴や物の考え方を「自分史作り」に込めてさらに理解を深めケアプラン作成に役立てようとしている。また、昨年度の目標達成計画にも掲げて取り組んできた「気づきの記入の工夫」や「残存能力を引き出す技術向上」も役立っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にカルテを準備し、食事・排泄・日々の様子や本人の言葉・周辺症状への対応等を記入している。個々に面会対応簿を作成し、情報の収集と共有に努め、介護計画に活かせるような取り組みも行っている。職員一人一人の異なる視点から気づきをケアに活かすために「気づきシート」を作成し、個々の気づきを職員全員で共有し、ケアの見直し等に活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様との外出・外泊など本人の体調がよければいつでも可能で柔軟な対応をしている。一日のスケジュールは大体決まっているが、その時々で利用者や家族に合わせて柔軟な支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園の清掃作業に毎月参加し地域の人と交流をはかっている。地域への買い物や理美容へ行き、地域の中での生活を重要視している。運営推進会議に民生委員や老人会の方の参加を頂き情報交換や協力体制を築いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望・もしくは本人の病状等にあつた適切なかかりつけ医を家族と相談して決めている。家族の協力を得ながら、かかりつけ医とも電話やメモ等で情報の共有を図っている	ホームの母体が医療法人であり、今日も往診が見られる等、本人・家族は心強い。管理者も「受診付き添いは必要な時は家族にも同行をお願いしますが、状況を確実に伝えたり把握したい為、必ず私達で致します」と、受診支援の重要性を強く語った。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医院との契約により、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っている。また体調の変化や異状は素早く看護師に報告し、早期発見・早期治療に結びつけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	サマリーをはじめ、出来るだけ詳しい情報を伝達している。入院時の付き添いをはじめ、入院中も出来る限りの面会と関係者との情報の交換や家族との連携を取り一日も早い退院をアプローチしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に文書に基づき説明を行い、事業所で出来ることなどを話し意向の確認は行っているが、入院から重度化・終末期を迎えた方が多く、医療的処置の必要な方が、大半だった	先程まで普通に暮らしていた方が、あつという間に逝かれたという経験を聞いたが今後も「医療的な手当てよりもこのホームでのケアが最良と判断されるケース」の場合は終末期に向けたケアを考えている。その時は再度家族や医療連携の確認や同意を得るようにしたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の緊急時対応やマニュアルを作成し見直しを行っている。また法人全体での定期的な研修やホームでの研修も行っているが、定期的に継続する事が課題である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回入居者と共に避難訓練を行ったり、随時シミュレーションを実施している。昨年度スプリンクラーを設置した。地域の協力体制については、運営推進会議等で協力を呼び掛けている	運営推進会議等でも災害対策を議題に掲げ地域の人達の協力を得ている。昨年の東日本大震災や9月の台風を受けての災害対策も現実的・具体的に、例えば「2階に介護度の高い利用者が多いのはいかがでしょうか」等、話し合われている。	岡山県は今まで災害が少ない地域だった為、行政も個人レベルでも真に向きあつてこなかったかもしれない。このホームでもマニュアル作成に止まらず今現在問題提起されている事から一つでも具体的なシミュレーションをし、実践へ向けて動いてみよう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴や性格を把握するとともに人格を尊重した声かけや対応を心掛けている	特に排泄や入浴への声掛けや何かを誘い掛ける時、その人の誇りやプライバシーに十二分に配慮している。利用者同士のやり取りの中で少し気になる状況がみられた時も、職員はさりげなく双方に声掛けて上手くおさめていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけや対応で選択肢を用意し、それぞれに合わせて希望や自己決定ができるよう場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大体決めているが、その中でも、起床時間・臥床時間・食事の時間・入浴・レクやイベントの参加・散歩・買い物等個別性を考えた支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れや身の周りの清潔には、常に気を配り、家族の協力を得ながら、その人らしさを尊重し、みだしなみやおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に決めることは、十分ではないが、できることを一緒に行うことをモットーにしている。買い物をはじめ、朝・昼・夕食手作りおやつ準備片づけ等と一緒にやっている。料理にまつわる話や巻きずしやすし作り・お好み焼き等は、利用者が率先してやっている場面も多くみられる	今日は3月3日、雛祭りの日。いつもはメニューは別々という事だが、両ユニット共今日は散らし寿司。そして、どちらも利用者が大活躍だ。介護度が高い人が多い2Fもゴマを擂る男性・酢めしを杓文字で切る人等、役割分担をしていた。その後、皆で美味しくいただいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の配置があり、栄養面での支援は十分にできている。医療との連携が必要な方の栄養バランス・食事形態・水分摂取量の確保の方法等あらゆる支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせて毎食後・起床時・就寝時に見守りや声かけで対応したり、できない方についても同様にケアを行っている。毎週法人内の歯科から医師・歯科衛生士の訪問があり、連携をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけそれぞれの排泄パターンを把握している。自尊心には、十分配慮する声かけや周囲に対する気遣い等にも配慮を行い、各人に応じたおむつ類の使用の検討を常に行っている。トイレでの排泄を基本とし、最後まで自立に向けた支援を行っている	男性利用者の増加に伴い急きょ男性用便器を取り付ける等対応している。重度化した人も日中は全員トイレ誘導し、排泄の自立にむけた支援をしている。また、個々の状況によく合わせたパット・紙パンツ等の使用を工夫して、家族の負担を減らす努力をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、各人の排便のパターンを把握している。薬に依存せず、食事や水分での摂取や毎日の運動や散歩等で自然の排便をこころがけている。また下剤や浣腸を使用している人は、医師や看護師と連携をとり、その人に合わせた方法を工夫している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則は毎日入浴としているが、こちらの都合で曜日を決めている。なるべく本人の意向にそうように入浴日や入浴時間等をその日の気分や体調等も考慮し決めている。	入浴を拒否する人も居るが、入浴と言わず「体重を測りましょう」と声掛けしたり、家族の訪問時に声掛けしてもらおう等、色々な工夫をしている。少なくとも2日に1回は入浴できるようにしているが、何度も誘う中で「入る」と応じる時に入ってもらおう。一旦湯舟につかると楽しんでもらっているようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や表情・気分によって自由に休息できるよう配慮している。ベッドもADLに応じて対応したり、安眠できやすい温度管理等の環境を設定している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用については、個人別カルテに貼付している。薬の変更時は申し送りノートに記入をしカルテの薬欄にも赤色等で明確にしている。薬はステーションに保管し、その都度名前・日付け等の確認を行い本人に手渡し、最後まで確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・洗濯・裁縫・料理等生活歴や好みを生かした場面を提供し、その都度感謝の言葉を伝えることで満足感を得られるよう支援している。また季節の行事や家族との外出やボランティアなどの受け入れ等も行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候等に左右されるが、散歩や買い物には、極力出かけるよう支援している。また家族との外出や外泊も楽しみにしておられたり、季節の行事(初詣・とんど・祭り)には、地域の人が協力的である	ホームのすぐ近くに大きな公園が有り散歩コースとなっていたり、何かと行き易い今村宮さんがあるので、日常的な外出には「もってこい」の状況だ。職員は良い季節には出来る限り買物や散策を誘うようにしている。	ここの家族の協力の度合いは大きい方と思うが、年数の経過と共に利用者の重度化は避けられない事なので、現在の家族の協力を是非継続してもらえ様、特に外出支援の役割を可能な範囲で担っていただく様、お願いしておきたい。これは家族との絆をさらに深める為でもある。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は持っていないが、買い物等にいったときに、支払いをしてもらったり、祭り等では、個別にお金を渡して払ったりする機会も設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話や、ホームの電話を利用され、家族等に自由に電話をしている。年賀状や暑中見舞い等は、職員が代筆するなどして全体でとりくんでいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は花を飾ったり、家族が持参してくれる写真や絵を飾って季節感を感じいただき、ソファや椅子でゆったりできるスペースを確保している。居室には、なじみのものを持参していただき安心した空間作りを家族に協力してもらっている。採光。温度・湿度等にも十分注意をしている	このホームの家族は自分の身内だけでなく、ホーム全体に気配りしてくれている方が多く共用空間づくりにも協力してくれている。1Fの壁面は普通の家庭に近い雰囲気、2Fでは利用者と一緒に作成した作品を掲示する等、それぞれよく話し合っ、空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は基本的には決めているが、その人の状況や他者との関係性等も考慮し工夫をしているソファやいすの配置も落ちついて過ごせるよう配慮をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新品ではなく使い慣れたものを持ってきていただくように協力をお願いしている。くつろげるよう本人に合わせてソファ等の持ち込みや居室を花や写真で飾ったり、工夫を凝らしている方もみられる	本人や家族の思いの深い物を入れてもらったり、本人の好みの色、好きな物を取り入れる等工夫している。ホームで作成したクラフトや塗り絵・その他の作品も各居室に飾っている。家族の写真を指差して、自分の来し方を話してくれる方も居た。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体が、バリアフリーになっており、歩行の不安定な方も安心して過ごしていただけるよう配慮がされている。ADLにあわせて浴室の手すりの位置を変えたり、できることを工夫改善している		